松江市教育大綱

（令和４年度～令和 11 年度）

松江市

松江市教育委員会

令和４年３月

（令和８年３月改定）

策定の趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の3第1項の規定に基づき、本市の教育理念や、それを実現するための方針、重点的な取り組みを示し、実現していくために松江市教育大綱を定めます。また、教育大綱で掲げた「基本理念」や「教育方針」を具現化するための展開（推進方向）を教育大綱の中に含めることで、教育基本法第17条第2項に定める「松江市教育振興基本計画」としても位置づけます。

大綱の期間

松江市総合計画の計画期間との整合を図るため、2022年度（令和4年度）から2029年度（令和11年度）の8年間を計画期間とし、半期が終了する令和7年度末に見直しを行いました。また、教育現場の状況変化に即応して適宜、必要な見直しを行うこととします。

基本理念

DREAMS from MATSUE（ドリームズ フロム まつえ）

～ふるさと松江から、夢を実現し未来を切り拓く～

松江市は、宍道湖・中海・日本海と堀川、大橋川などの水に囲まれ、八雲立つ山々に抱かれた雄大で美しい自然、古代からの悠久の歴史が脈々と受け継がれる中で磨かれてきた豊かな伝統文化が息づくまちです。一方、松江発のプログラミング言語「Ruby（ルビー）」を核としたIT産業など、ユニークな地域資源を有するとともに、地域のつながりや、ビジネスや学術、スポーツ・芸術・文化など各分野において、松江を心のふるさととして活躍されている人たちとの多くの出会いがあります。

私たちは、これらの水辺をはじめとする様々な地域資源を活かした学びや人との関わりなどを糧に、こどもたちの自ら生きる力を育むとともに、誰もが生涯を通じて共に学び、その成果を活かすことのできる環境を充実させ、ふるさと松江から（from MATSUE）、夢（DREAMS）を実現し未来を切り拓く人を育みます。そして、こどもたちが松江に育ったことを誇りに思い、どこにいても「松江が大好きだ」と思い続けてくれること、また、さまざまな形で、いずれ松江の将来を支える一員となってくれることを願っています。

本市では、「DREAMS from MATSUE（ドリームズフロムまつえ）～ふるさと松江から、夢を実現し未来を切り拓く～」を基本理念とした教育に取り組むこととします。変化の激しい予測困難な社会であるからこそ、一人一人が夢の実現に向けて自ら考え行動する力を持つとともに、皆が多様性を尊重し、お互いに個性を生かしながら、共に支え合って未来を切り拓いていかねばならないと考えています。皆さんのご理解、ご協力をお願いします。

■大綱の位置付けとイメージ

まちづくりの最上位計画である松江市総合計画で掲げる将来像「夢を実現できるまち　誇れるまち　松江」を目指し、本大綱においては松江市の教育における基本理念を「DREAMS(ドリームズ) from(フロム) MATSUE(まつえ)～ふるさと松江から、夢を実現し未来を切り拓く～」とし、それを実現するための４つの基本方針を示しています。

＝松江市総合計画＝
■松江の将来像■
夢を実現できるまち　誇れるまち　松江
■基本理念■
松江のジダイをつくる
※ジダイ…「新しい《時代》を築く」と
「《次代》につなぐ」の二つの意味があります。

整合

教育振興基本計画（国）

参酌

松江市総合教育会議

策定・見直し

＜基本方針Ⅰ＞
生きる力を持った
こどもたちの育成

＜基本方針Ⅱ＞
一人一人の育ちと学びを
支える体制づくり

＜基本方針Ⅲ＞
こどもたちの教育環境の充実

＜基本方針Ⅳ＞
生涯にわたり心豊かに
学び合う環境づくり

＝松江市教育大綱＝
（松江市教育振興基本計画）
■基本理念■
DREAMS from MATSUE
（ドリームズ　フロム　まつえ）
～ふるさと松江から、
夢を実現し未来を切り拓く～



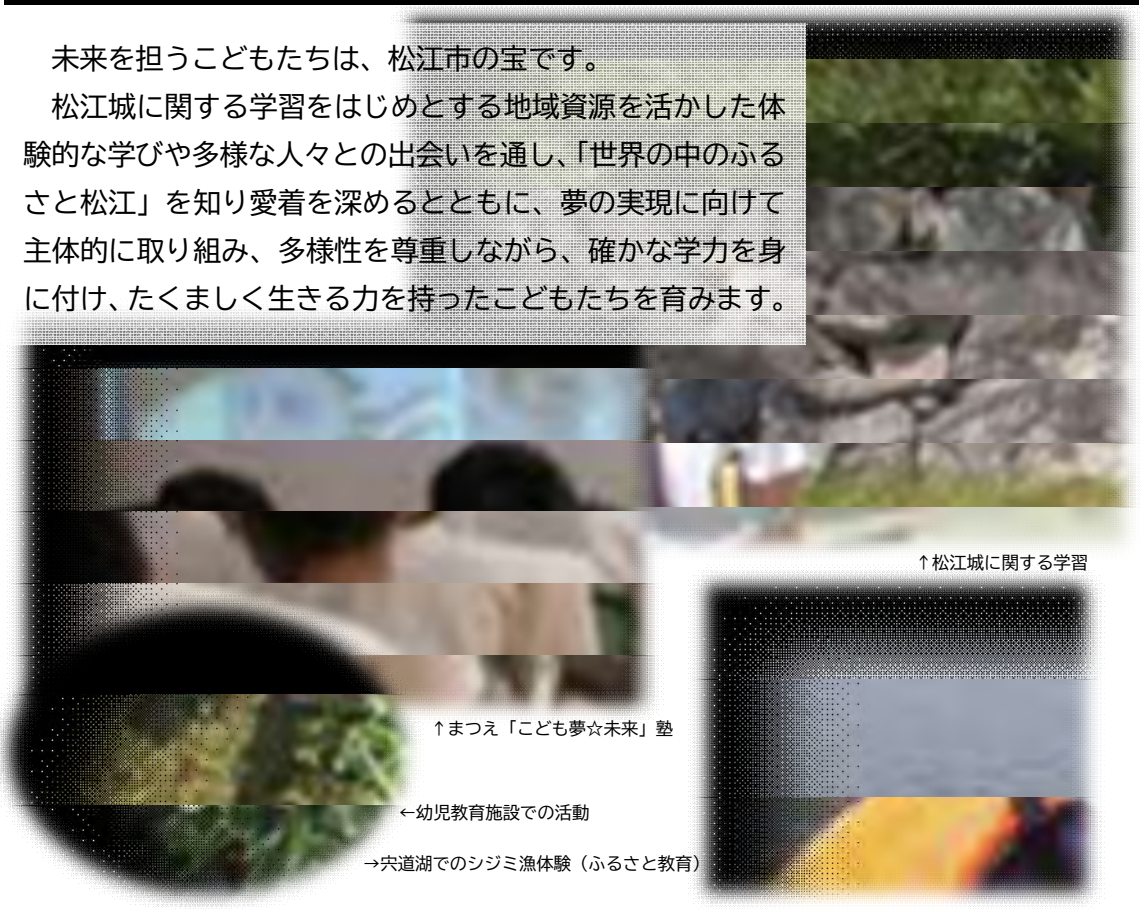
大綱を推進することで、国際的な課題である SDGs の達成にも貢献します。

各種計画・事務事業

Ⅰ　生きる力を持ったこどもたちの育成

未来を担うこどもたちは、松江市の宝です。

松江城に関する学習をはじめとする地域資源を活かした体験的な学びや多様な人々との出会いを通し、「世界の中のふるさと松江」を知り愛着を深めるとともに、夢の実現に向けて主体的に取り組み、多様性を尊重しながら、確かな学力を身に付け、たくましく生きる力を持ったこどもたちを育みます。



↑松江城に関する学習

↑まつえ「こども夢☆未来」塾

←幼児教育施設での活動

→宍道湖でのシジミ漁体験（ふるさと教育）

1　夢や希望、豊かな心を育む教育の推進

・地域の人や自然、行事などにふれあう豊かな体験を通じて、いろいろなことに好奇心を持ったり感動したりする「感じる心」や自分自身を「表現する力」を育てます。

・松江城をはじめ、地域独自の「もの」や「こと」、その地域に暮らす人との対話や交流体験を通して、「ふるさと松江」に対する実感を伴った理解と愛着を育みます。

・地元企業（事業所）のプレゼンター（起業人、Ｉターンや U ターン等を含む第一線で活躍する職業人）から仕事への情熱や苦労、楽しみ、そしてふるさと松江への思いを聞く「まつえ『こども夢☆未来』塾」や中学生向け職業体験イベント「MATSUE WAKU WORK」、各校の職場体験などを通じ、夢や目標を持ち、自己実現や自己のキャリア形成に向け主体的に考え、行動する力を育てます。

・「水都」松江が誇る宍道湖・中海・日本海、堀川をはじめとする地域に身近な川などの多様な水辺の環境を活かし、生き物の生態や環境、歴史や文化、スポーツや産業、食などについて考える、水に親しむ教育を積極的に支援します。

・総合的な学習の時間等を通じて、自分自身や仲間とともに松江ならではの新しいアイディアを考え、挑戦・実現していく主体性・積極性を育み、進路・職業・将来について考える機会をつくります。

・プログラミング言語「Ruby（ルビー）」の聖地として全国に知られるITのまち松江において、誰もが楽しくプログラミング的思考を養うことができるよう支援します。

・伝統産業や地元企業の工場見学などを通じて、松江の歴史や文化を知り、未来を考える力を養います。

・音楽、演劇など舞台芸術や、松江に伝わる伝統芸能の出前公演を学校や公民館で開催するなど、こどもたちが質の高い伝統文化芸術に触れ、親しむ機会、プラバホールのパイプオルガンの音色を体験できる機会などを創出します。

・地元出身選手や地域に密着したスポーツチーム選手による学校訪問、ふれあいの機会を通して、夢や希望、ふるさとへの誇りと愛着、グローバルな視野を育みます。

・松江ゆかりの文豪「小泉八雲」の感性とオープンマインドの精神をこどもたちが体感し、松江や日本の文化を再発見する取り組みを行います。

・こどもたちが夢を持ち未来を切り拓いていくために必要な感性を育てるため、市立図書館を核として、家庭、地域、幼児教育施設、学校と連携し、こどもの読書活動の推進、充実に取り組みます。

2　確かな学力の育成

・乳幼児期に育まれる学びの基礎力を「松江市幼児教育こどもまんなかビジョン」を基に育成し、小学校教育へ円滑につなげられるように、幼児教育施設と小学校を結ぶ松江市こどもまんなか幼小架け橋プログラムの推進を行います。

・基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させ、活用できる力（思考力・判断力・表現力）を伸ばすことで、全国水準以上の確かな学力を目指します。

・市独自の学力調査等のデータ分析をもとに学習の定着状況や課題を把握し、ICT[1]機器を活用した個に応じたきめ細かな指導を充実するとともに、教員の指導力向上など学力向上対策を推進し、確かな学力を育成します。さらに、個別最適な学びと協働的な学びを組み合わせ、学習の質と効率を高め、主体的・対話的で深い学びの実現を目指します。

・小学校高学年において教科担任制[2]を推進し、より専門性の高い教育を行うことでこどもたちの興味・関心や学力を高めます。

・学校司書や電子図書館サービス[3]を活用し、学校における読書活動や学習活動を充実させ、「学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力）」を育成します。

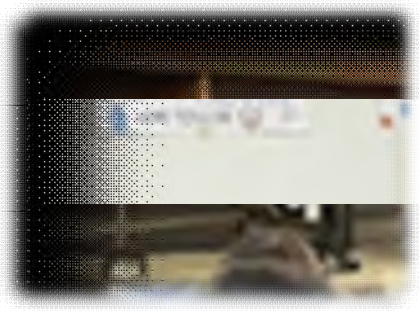
[1]教育現場で、コンピュータやタブレット、ネットワークなどの情報通信技術を活用し、学習活動や校務を効率化・高度化するための取り組み

[2]各教科を専門とする教員が担当し、児童生徒が教科ごとに異なる教員から指導を受ける制度

[3]インターネットを通じて電子書籍や資料を閲覧・貸出でき、学校内外で学習に活用できる図書館サービス



↑ICT 機器を活用した授業



↑夢授業（島根スサノオマジックとの交流）

３　ＩＣＴを活用した教育の推進

・GIGA スクール構想で整備した児童生徒用１人１台端末を活用し、作図やグラフに表す活動を通して思考を深めたり、課題についての意見を友達と共有し、新たな考えを引き出したりするなど、主体的な学びを推進します。

・学習履歴データの分析により、児童生徒の習熟度に応じた課題に取り組むなど個別最適な学びを通して、基礎・基本の定着や得意な教科への興味・関心を高め、個々人の能力・才能を伸ばします。

・電子黒板と１人１台端末を組み合わせ、課題を共有し、いくつかの考えを取り上げて話し合うなど、協働的な学びを通して課題を解決する力を育てます。

・クラウド環境で１人１台端末を活用することで、学習データの共有や共同作業等の学習環境が向上し、児童生徒が自分に合った学び、仲間とともに深める学び、創造性を発揮する学びの実現を目指します。生成 AI[4]についても、国の指針に沿って正しい教育利用を進め、学びの深化とデジタル技術を使いこなす人材の育成を進めます。

・ＩＣＴを活用した教育を進めるとともに、情報リテラシー[5]や情報モラルの学びも推進し、情報を正しく収集、評価したうえで扱うことができる情報活用能力を育成します。

４　自分と他者を大切にする心の育成

・自分のよさや可能性に気づき、自分を大切にしようとする心を育みます。

・他者の思いや背景に目を向け、互いの違いを尊重し、多様性を認め合いながら共に生きようとする心を育みます。

・依然として解決すべき人権課題が存在することに加え、SNS 等を通じて顕在化する新たな差別など、多様化、複雑化する人権課題を踏まえ、教育活動のあらゆる場面を通じて、一人一人を大切にする人権教育を推進します。

・教職員をはじめ、こどもを取り巻く大人一人一人の人権意識の向上を図るため、研修の開催方法や内容、周知の在り方を工夫し、学びにつながる学校教育・啓発機会の充実を図ります。

---

[4]教室・校務などの教育環境で、文章・画像・プログラムなどを自動生成し、学習支援や教員の業務効率化に活用される AI 技術

[5]情報を正しく見つけ、見極め、適切に使うための基本的な能力

・障がいの有無や程度に関わらず、こどもが、共に育ち合い学び合う取り組みを進めます。

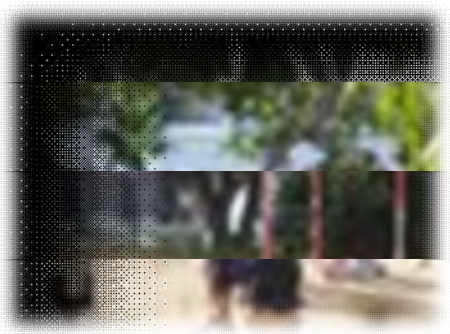
5　健やかな体づくり

・友達とともに楽しく全身を使って体を動かしたり、多様な動きを経験する機会やまつえっこ体操を活用した健康づくりの機会を大切にします。

・こどもたち自らが健康への意識を高め、健康づくり、体づくりができる力を育てます。

・地域のプロスポーツ選手等との交流を通して、運動・スポーツに親しみ、主体的に楽しく体づくりを行う機会を創出します。

・乳幼児期からの電子メディア機器の適切な取り扱いや、学校・学園でのメディアルールの実践化を進めるなど、望ましい生活習慣の定着に取り組みます。



↑まつえっこ体操（幼児教育施設）



↑健やかな体づくり

・栽培活動、料理教室など食の活動を通して「食への関心」や「食べる喜び」「食の大切さ」を豊かに感じられるようにします。

・安全で安心なおいしい学校給食を提供するとともに、地場産物や郷土料理を取り入れ、伝統的な食文化への理解を図るなど、学校給食における「地産地消」を進め、生産者・家庭・学校・行政が一体となって、次世代を担うこどもたちの食育を推進します。

・全教職員の共通理解のもと、家庭や地域と連携を図りながら、発達段階に応じた性に関する指導を推進します。

6　国際感覚を持ち社会を担っていく人材の育成

・外国語指導助手(ALT)の配置や小学生が英語で交流する「イングリッシュキャンプ」、中学生が他国の学生とつながる「オンライン国際交流」等を通じて、生きた英語や多様な文化、価値に触れることにより、国際感覚を身に付けた人づくりを推進し、外国語によるコミュニケーション力を育みます。

・高等学校においては、松江市発の、グローバルな視点を持って社会を支えていく人材を育むとともに、松江市全体を学びのフィールドとした探究型学習を推進し、高校教育の魅力化に努めます。

・現代の諸課題について学び、社会の一員として自分で考え行動できる力を育みます。





←↑ALT との授業



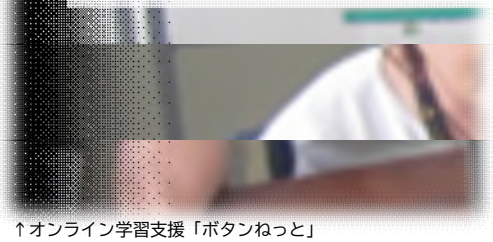
↑幼児教育施設での稲刈り



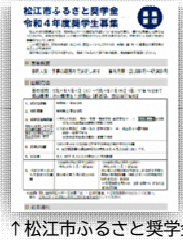
↑「まつえ学」の授業（皆美が丘女子高校）

Ⅱ　一人一人の育ちと学びを支える体制づくり

多様な個性・家庭環境や困難を有するこどもたちのために、教育と福祉等が連携しながら、育ちと学びのセーフティーネットを充実させ、一人一人を大切にした教育を進めます。



↑オンライン学習支援「ボタンねっと」



↑松江市ふるさと奨学金



↑発達・教育相談支援センター「エスコ」の「にこにこ教室」

1　特別な支援が必要なこどもに対する支援体制の充実

・障がい等によるこどもたちの生活や学習上の困難さに早期に気づき、適切な支援につなげるために、乳幼児健診や巡回相談など、教育・保健・福祉・医療等が連携した相談支援体制の充実に取り組みます。

・障がいのあるこども一人一人の教育的ニーズに応じた指導を提供するために、通常の学級、通級による指導、特別支援学級といった連続性のある多様な学びの場の一層の充実・整備に取り組みます。併せて、インクルーシブ教育[6]システムの構築に向けた体制整備を進めます。

・読み書きに困難さを抱えるこどもの指導や支援の充実に向けた研究・実践を進め、その成果の普及に努めます。

2　こどもたちの学びの保障の充実

・不登校やいじめなどの課題に対応し、切れ目のないきめ細やかな組織的な支援・指導に取り組み、こどもたちが通いたくなる魅力ある学校づくりを進めます。

・学校で学びたくても学べないこどもの家庭へ支援員を派遣する訪問型支援員派遣「こねくと」やオンラインでつながり、自分のペースで学ぶ機会を提供するオンライン学習支援「ボタンねっと」によりつながりを保ちます。

・「ふるさと松江」を支える人材に向けた奨学金制度や就学援助等により、経済的に困窮している家庭のこども、学生の学びを支援します。

3　困難を抱える青少年への支援

・困難を抱えるこども・若者に寄り添ったきめ細やかな支援を継続的に実施し、円満な社会生活及び自立を目指します。

・指導員と支援対象者との１対１の支援を義務教育期間中から行い、卒業後の繋がりを引き続き確保することで、将来のひきこもり防止に努めます。

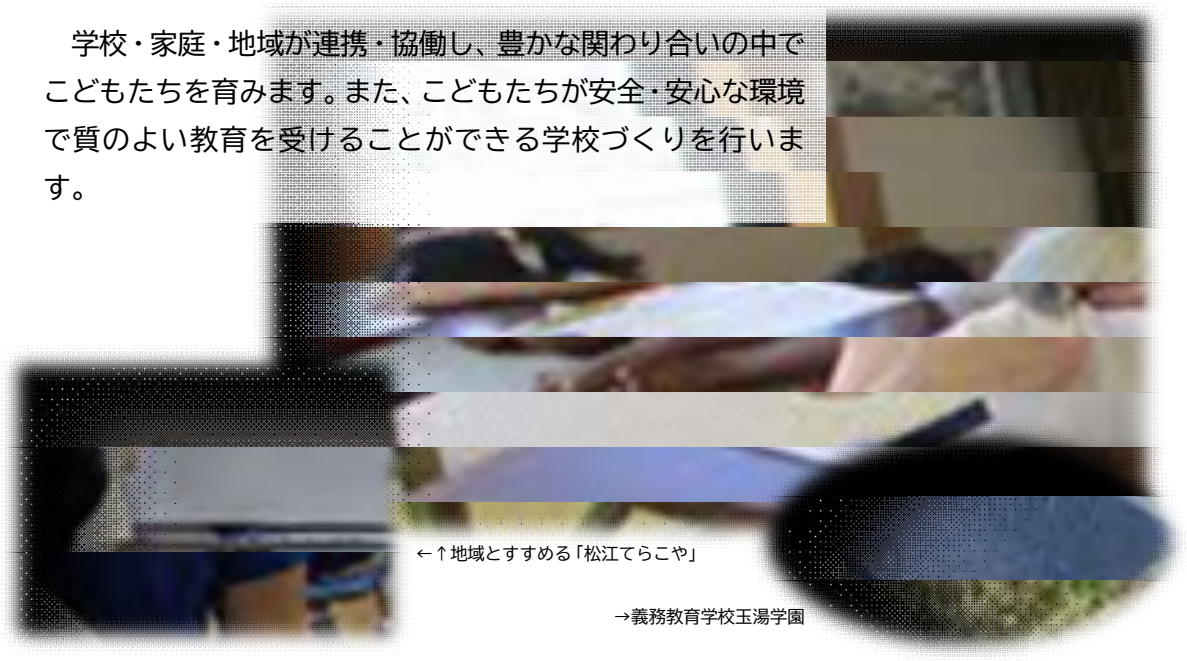
・青少年支援に関わる関係機関、団体で構成する「松江市青少年支援連絡会」の連携を強化し、それぞれの専門性を生かした、切れ目のない継続的な支援を行います。

---

[6]障がいの有無や背景にかかわらず、すべてのこどもが共に学び、参加できるようにする教育の考え方

Ⅲ　こどもたちの教育環境の充実

学校・家庭・地域が連携・協働し、豊かな関わり合いの中でこどもたちを育みます。また、こどもたちが安全・安心な環境で質のよい教育を受けることができる学校づくりを行います。



←↑地域とすすめる「松江てらこや」

→義務教育学校玉湯学園

1　学校・家庭・地域が連携・協働した教育環境づくり

・小中一貫教育をベースに、学校運営協議会[7]及び学園教育推進会議[8]と地域学校共働本部[9]の連携を活性化させ、地域ぐるみでこどもたちを育てる環境の充実に取り組みます。

・地域や小学校・幼児教育施設が連携し、こども同士の交流や対話を通した職員同士の研修を行いながら、就学前教育の質の向上と小学校へのスムーズな接続を促進します。

・「親楽（おやがく）プログラム」を通じ、こどもの育ちの礎である家庭教育支援の充実を図ります。

・放課後こども教室により学校・家庭・地域が連携して安全・安心な環境で様々な体験・交流活動の機会を提供するとともに、児童クラブの運営において民間事業者と連携して取り組み、こどもたちが安心して過ごせる遊びと生活の場を安定的に提供することにより、放課後児童の健全な育成を図ります。

・学校・家庭・地域が一体となって家庭学習の充実を図り、学習（学び）をサポートします。

・中学校部活動の地域展開により、「持続可能な活動環境の構築」と「教員の負担軽減」の両方を実現するため、地域・関係団体と連携し検討を進めます。

---

[7]地域住民や保護者が参画し、学校運営の方針や教育活動について協議し、校長を支援・評価する仕組み

[8]小中一貫教育校などで、学校間の連携や教育課程の統一的な推進を図るために設置される協議組織

[9]学校と地域が協力し、学習支援・見守り・行事運営など、地域ぐるみでこどもを育てる活動を組織的に進めるための拠点となる仕組み

2　安全・安心で良好な学校づくり

・児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人一人の資質や能力を伸ばしていけるよう、地域の実情に合わせて学校規模の適正化[10]を進めます。

・こどもたちが安全で快適な学校生活の中で集中して学習できるよう、学校施設の計画的な改修や設備の整備を進めます。また、避難所としても安心して利用できるよう、学校施設の防災機能強化も進めます。

・こどもたちが安全に通学できるよう、松江市通学路交通安全プログラムに基づき、道路関係部局や警察署、ＰＴＡ等とも連携しながら、通学路の安全確保を推進します。

・多様な人材がチーム力を発揮して効果的な学校運営ができるよう、学校への教職員・支援員配置を適正に行っていきます。

3　デジタル技術を活用した教育環境の整備

・日常的に１人１台端末等の ICT 機器を活用した授業や教育活動ができる環境の整備を目指します。

・1 人 1 台端末を自宅に持ち帰ることにより、学習ソフト等を活用した家庭学習やオンライン授業などができる環境の整備を目指します。

・ICT 機器を効果的に活用した学習指導ができる教員の育成を図ります。

4　学校における働き方改革の推進

・こどもたちと向き合う教職員の心身の健康を保ち、質の高い学校教育の持続・発展につなげるため、業務量管理・健康確保措置実施計画[11]を基に教職員の働き方改革を推進します。

・次世代校務支援システム[12]をはじめとする ICT 環境や生成 AI の活用などにより校務の効率化を図るとともに、教職員のワーク・ライフ・バランスの適正化を目指します。

[10]児童生徒数の過度な過密や過疎を避け、教育環境をより良くするために、学校の規模や配置を見直す取り組み

[11]公立学校の教職員の業務量を把握・調整し健康を守るために、教育委員会が策定する計画

[12]出欠・成績・健康情報などの校務データを一元管理し、教職員の事務作業を効率化するクラウド型システム



←落ち葉拾い（幼児教育施設）

↓放課後こども教室

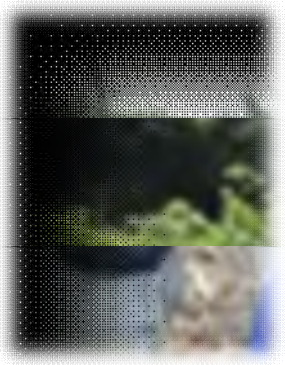


↓学校への端末整備





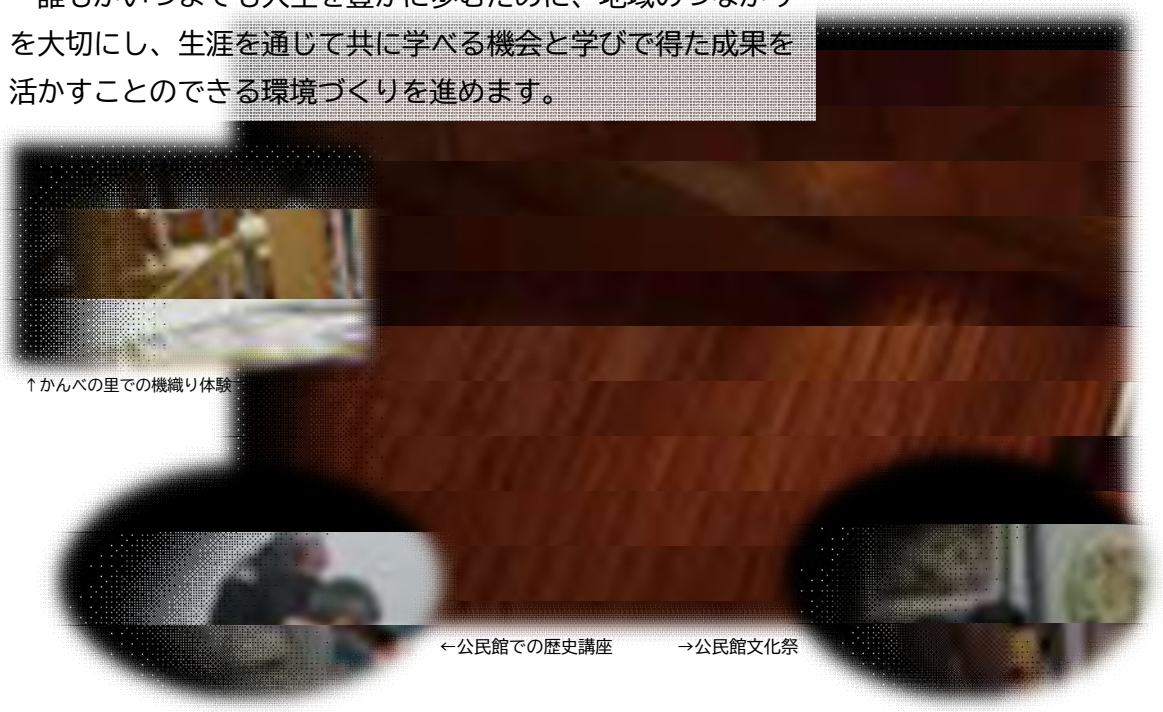
↑総合的な学習の時間



←小中一貫教育（桂島清掃）

Ⅳ　生涯にわたり心豊かに学び合う環境づくり

誰もがいつまでも人生を豊かに歩むために、地域のつながりを大切にし、生涯を通じて共に学べる機会と学びで得た成果を活かすことのできる環境づくりを進めます。



↓パイプオルガン（総合文化センター）

↑かんべの里での機織り体験

←公民館での歴史講座　　→公民館文化祭

1　生涯学習を推進する環境づくり

・一人一人が、生涯にわたって自らの興味・関心を具体的な行動につなげ、心豊かに仲間とともに学び合うことのできる環境の充実に取り組みます。また、デジタル技術の活用による学びの機会の拡大を図ります。

・学びを通じて、自ら地域を考え、地域を支え、次の世代を担うひとづくりに努めることにより、地域住民のつながりを深め、世代を超えた地域の活性化に取り組みます。

2　公民館を拠点とした地域を担うひとづくりの推進

・地域の拠点として、全ての市民にとって利用しやすい公民館となるよう環境整備を進めるとともに、公設自主運営方式を基本とした地域主体の公民館運営を推進します。

・地域づくりの拠点施設でもある公民館において、誰もが気軽に参加できる世代間交流の場を設け、互いの人生や経験から学ぶ機会を拡げるとともに、学びを通じて、自ら地域を考え、地域を支える次の世代を担うひとづくりを促進します。

3　総合文化センターを拠点とした文化振興と読書活動の推進

・松江市総合文化センターは中国、四国地方の公共ホールでは唯一パイプオルガンを備えており、松江市ならではの質の高い音楽を幅広い層の市民に提供する文化振興の拠点施設として、市民が芸術文化に触れる機会を創出するとともに、芸術文化活動の実践の場を提供します。

・学びの拠点である市立図書館が、市民のすべてのライフステージに対応できる、利用しやすく、居心地の良い図書館となることを目指し、電子図書館の導入など利用環境の整備を進めます。